

令和4年度 西東京市立保谷第二小学校 学校評価 [後期]

■学校教育目標	「自ら伸びる」 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子
■目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> ● 知・徳・体の調和がとれ、自らの向上を図る「自ら伸びる」児童 ● 他者を尊重し、集団の中で積極的に自らの役割を果たそうとする児童
■目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会との協働により、それぞれの児童の教育ニーズに応じ、次代を担う市民を育む「社会の雛形」としての学校 ● 生涯にわたって心の拠り所となる「地域のふるさと」としての学校
■目指す教師像	● 専門職としての使命感と誇りをもち、創意工夫に満ちた指導の充実に努め、子どもの心に灯をともしことのできる「プロフェッショナル」の教師
■学校経営上の成果と課題	<p>[成果] 学校目標から全て刷新してコミュニティ・スクールへの移行を果たし、「市民科」「モジュール型短時間学習」導入による指導改革を通して、児童の学力や体力が順調に向上しています。</p> <p>[課題] 経営方針の根本的な転換について、保護者や職員にも徐々に浸透しつつあり、「運動会」や「学芸会」が実施できましたが、なお一層の説明・周知に努めることが必要と考えます。</p>

関連教育目標	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	質問内容(教…教職員 児…児童 保…保護者)	教員の結果(%)					児童の結果(%)			保護者の結果(%)						
					A	B	C	D	対象外	A	B	無回答	A	B	C	D	不明		
よく考える児童の育成	教育効果の向上	基礎・基本の完全習得	朝学習でのモジュール型短時間学習により、基礎・基本事項の習得を継続的に図る。 ● 漢字 ● 計算 ● タイピング	①	教	朝学習を有効に用いて、計画的に基礎・基本の定着を図りましたか。	76.5	5.9	0.0	0.0	17.6	95.0	4.5	0.5	36.3	42.5	19.2	2.0	0.0
					児	漢字(1年生はひらがな)や計算が、ドリルやテストでできるようになりましたか。	↑10.2		±0.0		↓10.2	↑0.7	↓1.2	↑0.5	↓1.4		↑2.0		↓0.6
					保	家庭学習の中で、お子さんは、漢字や計算の基礎・基本ができていますか。	<p>[状況] ● 朝 15 分間のモジュール型短時間学習が定着し、漢字や計算の基礎・基本に大幅な向上が見られます。 ● 東京ベーシック・ドリルの診断テストでは、全校(2年以上)平均で、1 学期から 13.7 ポイントの向上を実現しました。</p> <p>[取組] ● 16 回にわたる個別の追跡調査を通して、九九のつまづきを全校でほぼ解消し、計算力向上を実現したことから1歩進め、「かけ算」の意味、「倍」の意味をとらえ、児童が最も苦手とする「割合」におけるつまづき解消を進めています。</p>												
		各教科等を横断させたカリキュラムマネジメントの実施 [横糸]	各教科等の指導内容を横断させ、教育効果を向上させる。 ● 言語活動の推進 ● 道徳科の充実	②	教	国語科の言語活動など、各教科等を横断した総合的な学びを進めましたか。	29.4	58.8	0.0	0.0	11.8	88.5	11.5	0.0	27.3	45.4	24.8	2.2	0.3
					児	自分の考えを友達に話したり、友達の考えを参考にしたりできましたか。	↑27.1		↓11.1		↓16.0	↑1.9	↓1.9	±0.0	↓0.1		↑0.1		±0.0
					保	お子さんは、コミュニケーションを通じて、考えを相手に伝えることができますか。	<p>[状況] ● 国語科の言語活動(インタビュー・メモ・新聞づくり・発表など)を、他教科等で活用する指導が、多く開発されました。 ● 行事に合わせて道徳科の内容を配置し、日常的な題材を道徳の視点で、自分のこととして捉えられるようにしました。</p> <p>[取組] ● 複数の教科・領域を組み合わせた「市民科」単元を開発しています。地域のリアルな課題から取材して、各教科等を横断し、既習を駆使した問題解決を図っており、国語力の育成と並行させています。行政と連携した「こども議会」や、西東京市を探究した「創作劇」、地域美化の拠点としての「花プロジェクト」など、価値ある教育活動を実現しました。</p>												
	各教科等を縦断させたカリキュラムマネジメントの実施 [縦糸]	6年にわたる「課題改善カリキュラム」を進め、漢字や関数の系統的な理解を促す。 ● 漢字の意味 ● 図や表の活用	③	教	漢字や算数科の数量関係について、既習事項に基づく系統的な指導をしましたか。	82.4	0.0	0.0	0.0	17.6	89.3	10.7	0.0	25.1	49.3	22.5	1.7	1.4	
				児	これまでに学習してきたことを、新しい学習に生かすことができましたか。	↑15.7		↓11.1		↓4.6	↑2.0	↓2.0	±0.0	↓0.5		↓0.1		↑0.6	
				保	お子さんは、過去に学習したことを、新たな学習に自ら生かすことができますか。	<p>[状況] ● 漢字のもつ形と音、意味の関係に着目した指導を継続した学級では、標準テストで平均 4.0 点の向上がありました。 ● 「割合」の問題場面において、線分図や数直線を描いて数量関係をよむ学習が、全学年で系統的に進んでいます。</p> <p>[取組] ● 算数科におけるモジュール型短時間学習の内容を、2学期途中に「九九」から「割合」にバージョンアップさせ、段階を細かく設定することで、個に応じた確実な理解を図っています。学期末の2度の追跡テストの結果は、順調でした。</p>													
	ギガスクール構想の具現化	個別最適化された学びの実現	文房具として日常的にタブレット端末の活用を進める。 ● 家庭学習との連携 ● 情報モラル	④	教	教材の電子化も念頭に、タブレット端末の日常的な活用を図りましたか。	47.1	35.2	11.8	0.0	5.9	89.0	11.0	0.0	34.6	46.5	12.4	3.9	2.6
					児	きまりを守ってタブレットを使い、知らないことを調べたり、考えを伝えたりしましたか。	↓6.6		↑11.8		↓5.2	↑0.6	↓0.6	±0.0	↓1.7		↑3.2		↓1.5
					保	子さんは、タブレット端末を、適切に学習活動に活用することができますか。	<p>[状況] ● ローマ字の学習を低学年から行い、タイピングの練習機会を確保したことで、端末への入力障壁を軽減しました。 ● 事前の調査は自宅で、集団での検討は教室で行う「反転学習」を、夏季休業に実施し、自立的な学びを促しました。</p> <p>[取組] ● タブレット型端末の動画「追いかけて再生」機能を用いた、体育実技の自立的な学びの実践を、校内で進めています。 ● 外部機器「micro:bit」をタブレット型端末から制御するプログラミング学習を進め、児童の論理的思考を育てています。</p>												
自立した学びを支える「学び方の学び」「考え方の学び」を、各教科等に応じて進める。 ● 調べ方・まとめ方 ● 思考ツールの活用			⑤	教	書籍や辞書、タブレットを用いた検索、インタビューによる調べ学習を進めましたか。	52.9	23.5	11.8	0.0	11.8	90.1	9.9	0.0	27.3	39.2	25.4	7.0	1.1	
				児	知りたいことを調べるとき、本やタブレットを使ったり、他の人にたずねたりしましたか。	↑4.2		↑0.7		↓4.9	↑2.2	↓2.2	±0.0	↓4.1		↑4.4		↓0.3	
保	家庭学習の中で、お子さんは、図書館の本や辞書、タブレットを活用できますか。	<p>[状況] ● 学び方の学び…8月に「調べ学習特設カリキュラム」を大幅に改訂し、言語活動の推進の方向性を具体化しました。 ● 考え方の学び…「こども議会」や道徳科の研究授業で、「思考ツール」を活用し、対話的な学びを具現化しました。</p> <p>[取組] ● 情報の特性や信頼性を理解し、場面に応じて書籍や辞書、タブレットを使い分けることを通して、自立的に学ぶスキルと学習意欲を育んでいます。訪問して、現物を直接見て触れる手段を選択する児童が、予想以上に多くいました。</p>																	

思いやりのある児童の育成	心に寄り添う指導の実現	「あったか学校」の実現	ユニバーサルデザインによる学習環境づくりを通して、全ての児童の学びに寄り添う。 ●机・椅子のサイズ ●視覚刺激・聴覚刺激の低減	⑥	教	教室の壁面やロッカーの整備、机・椅子のサイズ調整など、環境の整備をしましたか。	66.7	27.8	0.0	0.0	5.5	88.0	11.8	0.2	25.4	56.1	11.0	2.0	5.5		
							↑5.6	±0.0		↓5.6	↓2.2	↑2.0	↑0.2	↑6.7		↓1.9		↓4.8			
					児	教室では、集中して学習することができましたか。	[状況]	●全ての児童の机・椅子のサイズの個別最適化を徹底し、学習活動への専念、校内の安定化を実現しました。 ●全ての特別教室と倉庫を徹底的に整理し、各学年の備品を収納したことで、教室に空間的なゆとりが生まれました。													
			保	教室は、お子さんが学習に集中できる環境となっていますか。	[取組]	●机・椅子の管理を全ての特別教室にも及ぼし、あらゆる場所で、正しい姿勢で集中して学習できる環境を整えました。年2回の身体測定を机・椅子のサイズに反映し、テニスボールをリサイクルした工夫により、騒音を防いでいます。															
		⑦	教	教育相談の手法を用いて、児童や保護者のニーズに応えられましたか。	23.5	64.7	0.0	0.0	11.8	98.2	1.8	0.0	34.1	54.4	10.1	1.1	0.3				
					↓0.7	↓5.6		↑6.3	↑1.3	↓1.3	±0.0	↑4.2		↓4.0		↓0.2					
			児	自分や友達を大切にしていますか。	[状況]	●全員面接やアンケートを通して児童の内面を把握し、スクールカウンセラーの助言をもとに組織的に対応しています。 ●心理士と緊密に連携し、長期休業から学校生活再開への円滑な移行を、児童の心理と向き合いつつ図っています。															
	保	お子さんは、自己肯定感や、他者への思いやりの心が育っていると思いますか。	[取組]	●困り感のある児童への支援のため、保護者をはじめ、関わり得る外部機関も含めて、問題解決型のケース会議を開催しています。保護者や児童と合意した具体的な手立てを、協調して履行することで、困り感の解消を図っています。																	
たくましい児童の育成	健やかな生活習慣の形成	健康づくりと体力づくりの推進	食育を推進し、栄養・運動・休養のバランスのとれた生活の基盤とする。 ●食育指導 ●残菜の削減	⑧	教	食育を通して、児童の食体験を広げ、残菜を減らすことができましたか。	76.4	11.8	0.0	0.0	11.8	84.8	15.2	0.0	36.6	37.2	21.1	5.1	0.0		
							↑5.8	±0.0		↓5.8	↑3.9	↓3.9	±0.0	↑2.7		↓2.7		±0.0			
					児	給食を、好き嫌いなく、残さず食べることができましたか。	[状況]	●栄養・運動・休養のバランスの重要性を、年間を通じて指導したことで、残菜量が昨年度比で10%以上減少しました。 ●コロナ対応を徹底しつつ、国や都のガイドラインを踏まえ、黙食の緩和など、必要な手立てを丁寧に講じています。													
			保	お子さんは、好き嫌いなくバランス良く食べることができますか。	[取組]	●日々の残菜量を追跡調査しながら、児童の個人差に配慮しつつ、必要な栄養量に合わせよう継続的に指導しています。児童の体格が向上し、ほとんどの学年で平均値を超えており、学年が進むほど、その傾向が顕著です。															
		⑨	教	児童集団の遊びの体験を広げ、外遊びを促すことができましたか。	47.1	47.1	0.0	0.0	5.8	71.7	28.0	0.3	52.7	32.4	10.7	3.7	0.5				
					↑5.3	±0.0		↓5.3	↓5.3	↑5.0	↑0.3	↑1.7		↓1.9		↑0.2					
			児	休み時間は、校庭で友達と元気に遊ぶことができましたか。	[状況]	●昨年度、東京都から「子供の体力向上推進優秀校」として表彰された実績を超え、今年度の運動能力調査において、市平均を上回る種目数が、昨年度の32種目から54種目へと躍進しました。児童の体力が著しく向上しています。															
			保	お子さんは、屋外で友達と元気に遊ぶことができますか。	[取組]	●「遊び」の充実と「食育」の推進とを連動させています。また、水球のオリンピックや大相撲の力士などとの交流を通して、スポーツの多様性を伝えるとともに、個人内評価を重視し、それぞれの児童の「伸び」を大切にしています。															
		伸びる児童の教育環境づくり	地域に開かれた学校の実現	コミュニティ・スクールの持続可能な運営	教科「市民科」を設け、地域の教育力を用いた地域教材により、総合的・実践的な問題解決力を高める。 ●花プロジェクト ●まちづくり事業	⑩	教	児童の発達段階に応じて、総合的な問題解決学習の単元開発を図りましたか。	29.4	64.7	0.0	0.0	5.9	89.8	10.2	0.0	44.2	45.4	6.8	1.1	2.5
							↑55.2	↓44.4		↓10.8	↓2.4	↑2.4	±0.0	↓0.1		↑2.5		↓2.4			
児	地域のみなさんのアドバイスをもとに、花を育てたりすることができましたか。						[状況]	●全校で花を育て、「花大使」として地域美化にあたる「花外交」を軸に、地域社会と協働した学習が実現しています。 ●「どんど焼き」「むくのき祭り」など、地域固有の行事を教材化し、地域に学ぶ「市民科」の充実を図りました。													
	保			学校は、地域社会との連携を適切に行い、教育活動の充実を図っていますか。	[取組]	●コミュニティ・スクールとして、地域社会との協働の場を教育課程そのものに定め、「学校が主導する教育活動」「地域が主導する教育活動」「学校と地域が対等に協働する教育活動」の3層構造とすることで、運営を具体化しています。															
⑪	教			児童が、安全・安心を我が事としてとらえ、自ら退避行動をとれる指導をしましたか。	88.2	5.9	0.0	0.0	5.9	99.0	1.0	0.0	36.9	51.5	4.8	1.1	5.7				
					↑5.2	±0.0		↓5.2	↑2.6	↓2.6	±0.0	↑0.4		↑0.5		↓0.9					
	児		地震や火事、不審者から、どうやって自分を守るか、訓練で知ることができましたか。	[状況]	●14のブース形式による総合的な防災・防犯体験学習「あんぜんの日」を実現し、安全教育を顕著に前進させました。 ●全児童の通学経路を集計して、教職員版「安全マップ」を4月に作成し、安全指導の科学的な裏付けとしています。																
	保		学校は、お子さんの自立的な安全・安心のために、工夫した手立てを講じていますか。	[取組]	●コミュニティ・スクールとして、地域防災の拠点となるべく、避難所運営協議会と連携して、自前の「アクションカード」を用いた西東京市初の避難所開設訓練を12月に実施しました。翌年度、地域・保護者も含めて全校開催の予定です。																
⑫	教		校務の改善は進んでいると思いますか。	11.1	77.7	5.6	0.0	5.6	84.0	16.0	0.0	37.7	44.5	6.5	0.6	10.7					
				↓5.3	↓0.3		↑5.6	↑0.3	↓0.3	±0.0	↑0.8		↑1.6		↓2.4						
	児		先生と話したり、いっしょに遊んだり、分からないところを相談したりできましたか。	[状況]	●朝のモジュール学習を導入し、基礎基本の定着と時数確保を両立させ、教員が児童と向き合う時間を増やしました。 ●職員会議を最大限に効率化して時間を生み出し、学級事務や学期末評価が丁寧に行えるよう、振り分けています。																
	保		教職員の校務改善が、指導の質の向上につながっていると思いますか。	[取組]	●スクールサポートスタッフや副校長業務支援員、地域学校協働活動推進員、学習支援員、介助員、学生ボランティア等の人材を組織化し、事務室を経営に参画させることで、組織的な対応を果敢に行えることが、本校の「強み」です。																